

上原記念生命科学財団
第 10 回 特定研究助成金 募集要項

1. 助成対象課題	「脳 - 末梢連関による生体恒常性の維持とその破綻」(別紙応募要領参照)															
2. 助成対象者	前項に掲げた研究に意欲的に従事する日本在住の研究者(単独研究でも共同研究でもよい。共同研究の場合は主たる研究者が応募すること。)															
3. 助成金額 および件数	(A) 1件 1,500万円 約5件 (B) " 900万円 約15件															
4. 助成金の交付方法	<p>助成期間3年とし、次の通り分割交付する。 (単位:万円)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>初年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>900</td> </tr> </tbody> </table>		初年度	2年度	3年度	計	A	500	500	500	1,500	B	300	300	300	900
	初年度	2年度	3年度	計												
A	500	500	500	1,500												
B	300	300	300	900												
5. 応募方法	当財団ホームページ(http://www.ueharazaidan.or.jp)の助成金 Web 申請のページより応募する。															
6. 応募締切日	<p>Web 申請締切:平成29年7月31日(月)午前10時 郵送書類締切:平成29年7月31日(月)(消印有効) ※応募に際しては、助成金 Web 申請画面でのデータ送信および申請書原本の郵送の両方が必須となります。</p>															
7. 選考方法	当財団選考委員会において選考し、理事会で決定する。															
8. 採否の通知	平成29年12月14日(予定)に採択者をホームページに掲載の上、採択通知を郵送する。															
9. 助成金の使途・ 使用期間	<p>助成金の交付対象となる経費は、助成金交付から収支決算報告書提出期限までの約1年間に支払われる、研究に要する物品の購入費用およびその研究の推進に必要な費用とする。</p> <p>注) 当財団からの助成金(寄附金)は全額を研究費に充てていただく方針のため、所属機関へ支払う間接経費/オーバーヘッドに関しては所属機関内で免除手続等を行うこと。</p>															
10. 助成金の交付	初年度は平成30年1月~3月の間に贈呈し、2年度以降も同様とする。但し、その贈呈式は平成30年3月9日に行う。															

<p>11. 報告の義務</p>	<p>(1) 助成金受領者は、平成32年に開催する国際シンポジウムの組織委員または講演者となって研究成果を発表する。シンポジウムは当財団が主催し、開催に必要な諸経費は財団が負担する。 また、国際シンポジウムのプロシーディングを発行する。</p> <p>(2) 上記のほか、平成30年(初年度)に研究計画発表会、平成31年に中間報告会を開催する。また、組織委員会を適宜開催する。</p> <p>(3) 初年度は平成31年4月30日までに、収支決算報告書および研究経過報告書を当財団に提出する。(2年度目は平成32年4月30日まで、3年度目は平成33年4月30日までに提出する。)</p> <p>(4) 本研究の成果を公表する場合は、「公益財団法人上原記念生命科学財団(英文の場合は“The Uehara Memorial Foundation”)」の助成による旨を明らかにすると共に、刊行物に掲載した場合は、その写を当財団に提出する。</p>
<p>12. その他</p>	<p>(1) 特定研究助成金受領期間中は、当財団の他の助成金への応募は不可とする。</p> <p>(2) 申請書に記載の個人情報、助成(奨学)・表彰に関し、募集要項等の送付、選考手続・選考委員への提供並びに選考結果の連絡及び公表等に利用することがある。但し、利用は目的の達成に必要な範囲で行う。</p> <p>(3) 申請書は採否に関らず一切返却しない。</p>
<p>13. 申請書送付先 および照会先</p>	<p>公益財団法人上原記念生命科学財団 〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目26番3号 E-mail: mail85@ueharazaidan.or.jp</p>

特定研究助成金応募要領（別紙）

<特定研究課題>

「脳-末梢連関による生体恒常性の維持とその破綻」

1. 目的

「病は気から」という言葉があるが、様々な精神疾患の発症にも遺伝要素に加えて環境因子が重要なことも良く知られており、「気は病から」も、また、真である。このことは、脳と末梢がクロストークして生体の恒常性を維持しており、その破綻が疾患の発生につながることを示唆しているが、最近の研究によりその実体が明らかになりつつある。例えば、脳は肥満や過栄養の際に脂肪組織や肝臓など末梢からシグナルを受け全身性の代謝調節を司っていることが明らかになって来ているし、代謝疾患の患者では過食、アルツハイマー病、うつ病など神経・精神疾患の合併率が高いことも知られている。また、古くから、胎児期の低栄養やウイルス感染が統合失調症や自閉症の発症に関係することが知られていたが、近年の研究により、これが母体での免疫機構の活性化に由来する可能性が明らかにされつつある。加えて、うつ病や不安亢進の原因として、腸内細菌叢やそれによる炎症の役割が注目を浴びているが、反対に、脳からのシグナルが免疫や骨髄の機能を調節していることも報告されている。老化や心理ストレスは神経・精神疾患の病態を促す危険因子とされてきたが、これらが中枢神経系と末梢の両方で慢性炎症を引き起こし、脳機能変化や身体症状を惹起することも見いだされている。神経・精神疾患を反映する末梢臓器の変化はバイオマーカーとしての応用が期待され、また末梢から脳機能へのアプローチは神経・精神疾患の新規治療法の提示に繋がる。本特定研究は、神経科学、免疫学、内分泌代謝学、神経内科学、精神科学など多岐にわたる領域の基礎科学者、臨床研究者が集合し、本テーマに関して最新の知見や方法論について意見を交換、動物実験を越えてヒトの科学へ地平を拓くことを目的とする。

2. 対象となる研究

神経科学、免疫学、内分泌代謝学、神経内科学、精神科学など多岐にわたる領域の基礎科学者、臨床研究者が集合し、本テーマに関して研究を進め、最新の知見や方法論について意見交換する場を形成するため、下記3つの研究領域にて研究者を募集する。

- (1) 代謝と生体恒常性における脳-末梢連関
- (2) 神経機能と脳-末梢連関
- (3) 神経・精神疾患、代謝疾患と脳-末梢連関